

大学名	コメント
長崎国際大学	近年、大学の教育現場ではICT技術のみならず生成AIを利活用した学修方法が浸透し、多様で柔軟性のある学び方へと急激な変化がみられている。今後は更に専門分野を問わず、生成AIやデータサイエンスなどの新しい技術が様々な形で学修活動に導入されると考えられるため、教職員は自ら、これらの知識・技能の修得に努めると共に、教職協働による教育の質向上を目指さなければならない。また、QSP参画校の間での連携促進を図るのみならず、保護者・卒業生などのステークホルダーや地域社会との繋がりを深めて学修活動に一層の広がりを持たせることにより、学生の興味関心や学ぶ意欲を高め、アクティブラーニングなどの効果的な学修手法を用いた授業展開を通じて、授業外学修時間の確保などに務めていく必要がある。 本学の在籍者数は収容定員の92.4%であり、種々の取組を通して定員充足を目指している。とは言え近年では、学力不足の学生や合理的配慮を必要とする学生など、多様な背景を持つ入学生を受け入れる必要がある。現在、在籍者数に対する留年者数・退学者数の割合は概ね3～5%程度であり、定員充足を目指すことと併せて、入学者の学力等の状況、特性を踏まえ、個々の学生に対するきめ細やかな対応を充実させることで留年・退学者の減少(離学防止)に努め、資格取得や希望する進路・就職等の実現へと結びつけていかなければならない。更に、本学においても多数の留学生を受け入れており、近年、その出身国・地域等も多様化しているため、日本語能力の向上をはじめとして様々な支援の充実と拡大が課題となっている。留学生を含む新入学生、在学生のそれぞれが必要とする手厚い支援・サポートを大学として充実させていくことで、学生生活全般における満足度向上を図ると共に、卒業時における学修成果の可視化など教育の質保証に取り組んでいくことを、本学の重要な課題と認識している。
長崎総合科学大学	入学者については、ほぼ定員を満たしている。留学生の割合は、10%強である。 また、就職者の割合はほぼ100%となっている。 進学率は、卒業者数の約20%である。（QSP参画）私立大学の平均と比較すると10%高くなっており、産業界から高度な理系人材を求められていることを鑑み、さらに進学率を上げていきたい。
長崎外国語大学	本学のST比は18.2であり、QSP構成私学において平均（16.0）を上回り、学校別では2番目に高い。大学院を勘案していない（本学大学院未設置）点を割り引いたとしても、本学が規模に応じた適正な教員数を確保できているかについて今後の学内検証が必要と史料。またR5年度調査においてQSP構成私学中最下位であった就職率は依然として低位（69.7%）であり、進学者を含めた進路決定率（73.9%）と併せて今回も最下位に止まった。留学生の卒後帰国から進路決定までのタイムラグの存在が進路未決者発生の大きな理由であるが、この点に対する各大学等の先駆的な取組事例があれば参考にさせていただきたい。なお、学修時間については今後全国学生調査を統一フォーマットとし、該当学年次も当該調査に合わせることで各大学等間の比較検討が可能になる可能性もあり、ご担当WGにてデータ典拠の変更をご検討いただければ考える。
鎮西学院大学	入学定員、収容定員の充足率は継続して100%以上を維持している。社会人学生の受け入れが極端に少なく、努力する必要がある。退学率は減少傾向にあり、留年者数の低さと同様、きめの細かい就学支援の成果が出つつある。卒業生数に占める就職者の割合は87.6%であり、QSP内では3位となっている。
西九州大学	本学は、QSP参画校（私立大学）の中で最大規模の学部構成（5学部7学科）を有しており、在籍者数も私立大学平均を大きく上回っている。また、医療・福祉・教育分野を中心に幅広い資格取得実績があり、専門職養成を担う総合大学としての特色が表れている。さらに、退学率を試算すると3.05%であり、QSP私立大学全体の3.44%を下回っている。このことから、学生支援や学修継続に向けた取組みが一定の成果を上げている可能性がうかがえる。今後は、退学状況と学修成果、資格取得状況等との関連について分析を深め、本学の教育効果や学生支援の有効性をより客観的に検証していくことが重要であると考えられる。
長崎短期大学	本学の学生の構成は留学生比率が高い（26%）傾向にある。留学生の受け入れは入国管理に関する手続き、入国後の生活支援（市役所での手続き、住居、日本のルールの周知）等、煩雑な業務が多くある。教職員の負担軽減のため、日本人学生に加え社会人の受入れを促進したい。 また、退学率は低い傾向にあるため入学者がすべて卒業にいたるよう今後も学生支援を続けたい。なお、留年率は高いが海外留学を理由とするものがほとんどである。さらに、卒業者に対する就職・進学率の決定率が低いいため、キャリア支援の充実が望まれる。
西九州短期大学部	本学は、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士等に係る資格取得実績に加え、就職実績についても安定した成果を示しており、地域社会を支える専門人材の養成機関として一定の役割を果たしていると考えられる。学修時間については、参画校と比較して低い傾向が認められる一方で、資格取得および就職実績は概ね良好な水準を維持している。このことから、資格取得支援、学生支援等が教育成果に一定程度寄与している可能性が示唆される。今後は、学修時間と教育成果との関連を検証するとともに、本学の教育成果を支える要因について分析を進め、教育の質保証に資するエビデンスとして蓄積していくことが求められる。
佐賀女子短期大学	IRデータによると、定員充足率は92.7%と大きく改善した。留学生の増加が大きく寄与しており、その支援体制を整えていく必要がある。退学者数は減少しており、細やかな学生支援の効果が出ている。社会人学生は増加しており、少子化の中、学生を確保する効果的な方策であるため、引き続き、委託訓練制度の活用など、社会人学生の受入れを促進したい。